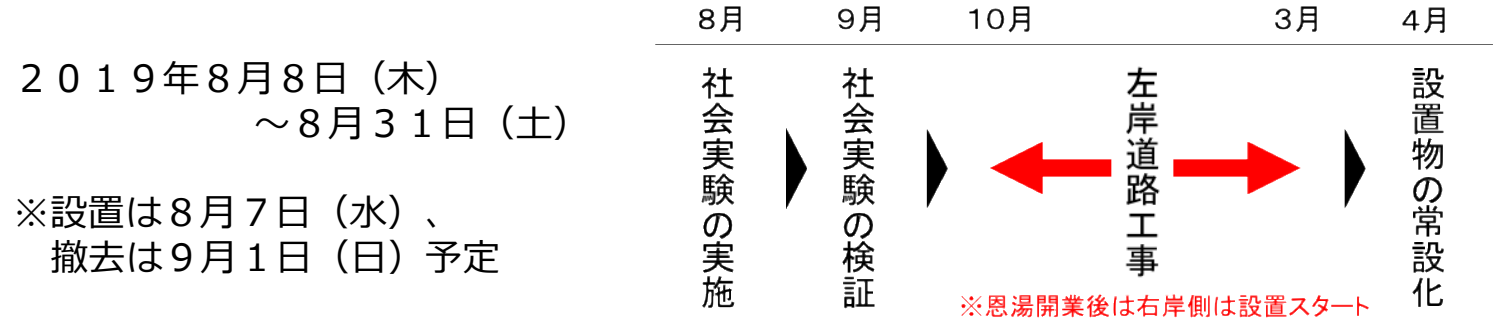


社会実験の目的

2020年4月からの本格実施（常設）に向け、昨年度までの課題（プランターの重さなど）や常設に向けたデザイン面、管理体制の検証を行う。

- 1. 狭窄部の明示方法の検証
- 2. 管理・運営体制、使用ルール等への反映
- 3. 活用のためのデザインの検証
- 4. 法定外看板の確認

実施スケジュールと今後の流れ



検証項目

- ①狭窄部明示の有効性の検証
  - ・設置物や、その設置間隔が狭窄部明示の役割を十分に果たしているか
- ②設置物のデザイン・構造の検証
  - ・サイズ・素材・色彩・植栽等が景観とマッチしているか
  - ・狭窄部の歩道空間活用に適したデザインとなっているか
  - ・常設に耐えられる構造、重量、形状、材質となっているか
- ③路上駐車抑制
  - ・狭窄部明示の設置物の間隔が路上駐車を抑制する間隔になっているか
- ④緊急時対応の確認
  - ・設置物をどのくらいの人数や時間で移動・再配置できるか
- ⑤維持管理体制の確認
  - ・地域と連動した植栽の維持管理や、設置物の保守の体制の確認

設置物の概要

- ①狭窄部を明示するための什器
  - ・人が容易に動かせない重量のある構造とする。
  - ・圧迫感無く、且つ明示としての機能を高めるためにプランターとし、上部に植栽を植える。
  - ・緊急時の撤去には対応できるようにハンドリフトが入るような隙間を下部に設ける。
  - ・景観に馴染むような素材を選定し、要所には金属を用いる。
  - ・照明や蓄光系の塗料などを使用し、夜間でも認識できるようにする。
- ②歩道空間活用のための什器
  - ・簡単には動かないように、ある程度の重量があるのものとする。
  - ・景観に馴染むように木を中心とした素材を選定し、要所には金属を用いる。

設置物の内容

①狭窄部を明示するための什器イメージ



※昨年度設置のプランター

②歩道空間活用のための什器イメージ



配置のイメージ

- ・狭窄部に入る箇所にボードを設置（4か所）
- ・狭窄部を明示するプランターは区画線から河川側に0.5mセットバックして設置（はしご車等の円滑な通行を妨げないよう、車道2.5m＋両側路肩0.5m＝3.5mを確保）
- ・狭窄部での路上駐車を防止するため、プランターを5m間隔で設置し、その間にベンチ等を配置する。
- ・狭窄部に置くベンチやテーブル等の配置は、歩行空間が確保できるよう配慮する。

▼プランターの配置間隔イメージ

